

タランティーノ監督を最高にハイにしたものとは!?  
おすぎさんを30年ぶりに満足させたものとは!?



彼女を襲うのは映画史上最恐の敵!?

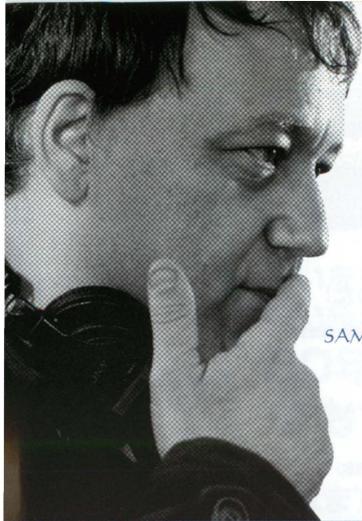
スペル

「スパイダーマン」シリーズサム・ライミ監督 最新作

11.6 [fri] ROADSHOW

スペル = 呪文、呪縛にかけられている状態

衝撃の答えはこの中にー!



SAM RAIMI (Co-Writer/Director)

これは、僕が、10数年前、つまり、『スパイダーマン』の前からずっと、あたためてきた作品なんだ。  
ごく普通の人間が呪われ、極限状態に追い込まれたとき、  
どんなことが起こるのかを想像するのは面白い！  
とうとうこの作品が世に出るが、この恐ろしい筋書きに、  
きっと観客は悲劇の主人公と共にこの最恐の3日間を体験するだろう！——サム・ライミ監督

「スパイダーマン」

サム・ライミ監督

主人公と共に この恐怖を体感せよ！

何故？ どうしたら？ 解けなければ、死。

## STORY

きっかけは、ほんの小さな不親切  
逆怨みで言い渡された「3日の生き地獄と、死。」  
映画史上最恐の3日間が、始まる



銀行のローンデスクで働くクリスティン・ブラウン（アリソン・ローマン）は、ライバルに勝ってアシスタントマネージャーに昇進するために、上司に「出来る」ことをアピールする必要に迫られていた。そこに現れたのはジブシー風の老婆（ローナ・レイヴァー）。クリスティンは、彼女の3度目の不動産ローンの延長願いをキツバリと断る。すると老婆は態度を豹変。

激怒し、飛び掛ろうとしたところを、取り押さえられその場を追いやられた。その夜、仕事が終わって駐車場に向かったクリスティンを待ちうけていたのはあの老婆。敵意むき出しに掴みかかる老婆に必死に対峙するクリスティン。しかし死に物狂いの応戦虚しく、力尽きる。薄れ行く意識のなか、聞きなれない呪文のようなものを聞く。

DAY 1



昨夜の不穏な体験のあと、身の回りにおかしなことが起こり始めたことを不安に思ったクリスティンは、謝罪し、気味の悪いその状況を元に戻してほしいと請うべく老婆の家を探す。住所を頼りに老婆の家を訪ねると、老婆の葬儀の最中だった。

DAY 2



タイムリミットは48時間



DAY 3



怖い……

監督:サム・ライミ「死霊のほらわた」シリーズ 脚本:サム・ライミ/アイヴァン・ライミ  
キャスト:アリソン・ローマン「ビッグ・フィッシュ」/ジャスティン・ロング「タイ・ハード4.0」/アドリアナ・バラッサ「パベル」  
原簿: Drag Me To Hell / 2009年 / 99分 / アメリカ映画 / カラー / シネスコ / ドルビーデジタル / 字幕翻訳: 黒地純平  
配給: キヤガ GAGA powered by ヒューマックスシネマ ©2008 Curse Productions LLC. All Rights Reserved

spell.gaga.ne.jp



# 11月6日(金) 全国ロードショー

〒135-8718  
東京都港区台場1-7-1 アクアシティお台場  
シネマ メディアージュ  
TEL 03-5531-7878 (24h ご案内)

# みんな、こんなに驚いた!!

史上最恐の3日間に、前代未聞の高評価!! その理由はこれだ!!

怖いを見たい!! と  
思い続けている私にとって、『エクソシスト』以来  
30年待った待望の傑作であります!!

★おすぎさん(映画評論家)

これまで死ぬほど映画をみたけど、  
『スペル』は最高にハイになってテンションが上がったよ!  
今年一番の映画のごちそうだ!!

★クエンティン・タランティーノさん(映画監督)  
New York times Style Magazinesより



悪戯坊主のサムが、最高に不気味で  
素敵な玩具箱を片手に運ってきた!  
ワクワク! ドキドキ! ギャハハハ...ギョアアア!  
抱腹絶倒、夢と怪奇とロマン!  
僕と彼は似ている...  
一緒に『呪怨』(リメイク)を作っていた時、互いに確信した。  
おかしいほど怖い! 怖いほどおかしい!  
至福のひとつときをありがとう!!

★清水崇さん(映画監督:『呪怨』シリーズ、『戦慄迷宮3D』、『怪奇大家族』)

寝不足で試写会に行った私が、  
眠気に襲われる暇もないほど夢中になりました。  
何度、心臓をわづかみにされたか、わかりません。  
こんなにハードなホラー、観た事ない!  
正直、51歳の心臓には限界ギリギリでした。

★中村うさぎさん(作家)

■人気イラストレーター 五月女ケイ子も絶賛!!



どんだけ自由なんだこの映画。  
コワイし笑かすし。  
みんなでギャーギャー言いながら観たいね。  
★大槻ケンヂさん(筋肉少女帯)

「スペル」を観てから  
現実世界に戻って来るまで十二時間かかりました。  
このパッドトリップ病みつくなりそうです……。

★辛酸なめ子さん(漫画家・コラムニスト)

僕はこれをスパイダー型ホラーと呼ぼう。  
遊園地のアトラクションみたいに楽しめる  
エンターテインメントなホラー! さすがサム・ライミ。  
ホラー苦手な僕でも、好きです。これ。

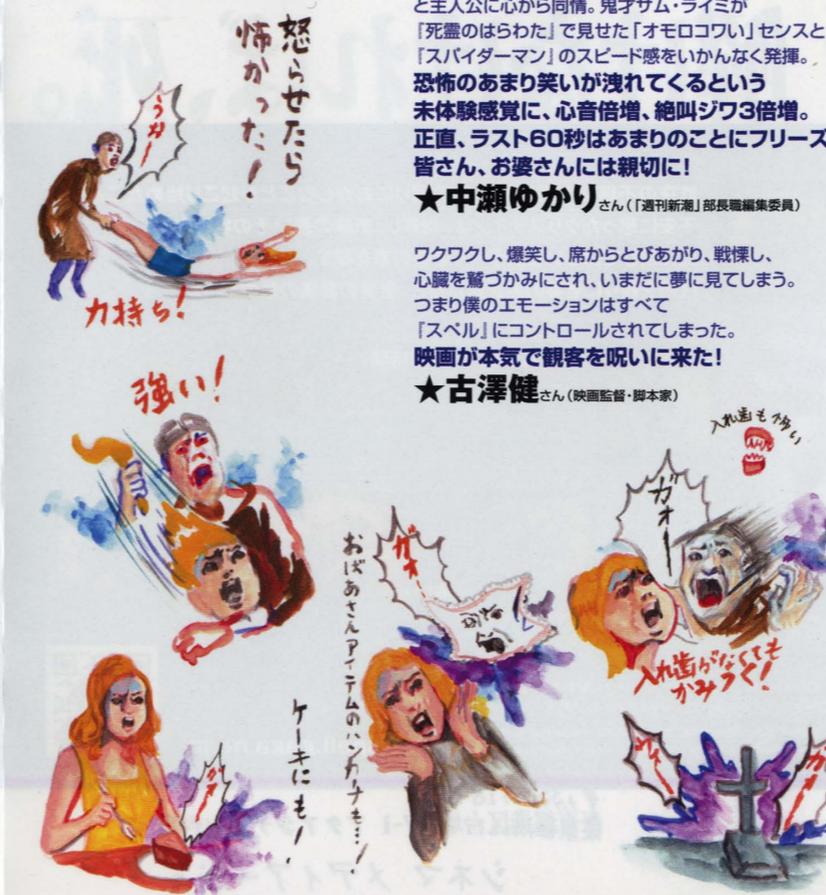
★鈴木おさむさん(放送作家)

この映画の前後に決してお飯は食べないで下さい。  
サム・ライミ式ダイエットムービー!!

★キャイ〜ン天野ひろゆきさん(漫才師)



「死霊のはらわた」を見てから  
何年経っても恐怖が頭の中に蘇ります(汗)  
そしてまた今回もやってくれたな〜。  
音と映像の迫力で飛び上がるほど  
ビックリした後に笑わせてくれる  
センスに再び驚く。  
そして脳裏に焼きつく物語、登場人物と結末。  
この遊びはライミ監督ならではの調合!  
しかし、あのバアさん怖えーよ!  
人にはいつも優しくしよ〜っと。  
★LiLiCoさん(映画コメンテーター)



バワフルな恐怖を積み重ね、  
極上の笑いにまで昇華させた  
究極のショッキング・ワンダーランド。  
このジャンルの映画史に  
確実に残る大傑作の誕生。  
★江戸木純さん(映画評論家)

きっかけは些細な不親切。  
誰にでも起こりうる状況に首筋がヒヤリ。  
それにしても怒りの老婆、  
何もここまで呪わなくても……  
と主人公に心から同情。鬼オサム・ライミが  
「死霊のはらわた」で見せた「オモロコワイ」センスと  
「スパイダーマン」のスピード感をいかに発揮。  
恐怖のあまり笑いが洩れてくるという  
未体験感覚に、心音倍増、絶叫ジワ3倍増。  
正直、ラスト60秒はあまりのことにフリーズ。  
皆さん、お婆さんには親切に!  
★中瀬ゆかりさん(『週刊新潮』部長編集委員)

ワクワクし、爆笑し、席からとび上がり、戦慄し、  
心臓を驚つかみにされ、いまだに夢に見てしまう。  
つまり僕のエモーションはすべて  
「スペル」にコントロールされてしまった。  
映画が本気で観客を呪いに来た!  
★古澤健さん(映画監督・脚本家)

映画史上最強の入れ歯なしババアが襲って来る!!  
アリソン・ローマンの鼻血がらメートル飛ぶ!!  
とか、どうしてもエキセントリックなシーンばかりが  
取りただされそうなの映画だが、  
実は最近珍しいほどの真つ当な  
本格的ホラー映画であることを忘れてはならない。  
「死霊のはらわた」以降、ホラー映画はパロディのルツボ  
と化し、様々なヴァリエーションが出尽くした。  
そんな中、仕掛けの張本人が今一度  
ホラー映画を本来の形に戻そうと躍起になっている!!  
安易なパロディに陥らない  
ホラー映画の神髄とは何か? とくとも見てほしい  
★山口雄大さん(映画監督)

「死霊のはらわた」[XYZマーズ][ダークマン]の  
ライミが帰ってきた! あと100回は絶対観る!!  
★三留まゆみさん(イラストライター)

「恐怖」と「笑い」が同じ瞬間に味わえるのは  
探偵かすお先生の漫画だけだと思っていたが、  
ここにもあった!  
★花くまゆうさくさん(漫画家)

「大いなる力には大いなる責任がともなう」  
それを忘れて金融危機を引き起こした  
アメリカの住宅ローンに  
サム・ライミが地獄の裁きを下す!  
★町山智浩さん(映画評論家)

世の中、何が起るか分からない。  
現代こそ絶対ありえる事件!  
怖くて笑える、主人公の闘いっぷりが凄!  
あなたならどうする?  
★園田恵子さん(詩人)

サム・ライミ師匠!  
怖くて、面白くて、参りました!  
★木下半太さん(小説家・劇団主宰)

サム・ライミ節全開!  
久しぶりにコワイおばあちゃんムービー  
見せてもらいました!  
★山本賢治さん(漫画家)

地獄のババ抜き解禁!  
ババアの独り言「スペル」はおつかねえ!  
★平山夢明さん(作家)

「これからは3Dだよな」  
なんて惚けてた僕の頭をサム・ライミ監督が  
鷲掴みにして「オレを忘れたのかあ!」と  
ガンガン揺らす99分に完敗させられた、  
おかえり先輩映画。  
★松江哲明さん(ドキュメンタリー監督)

ここまでやるか、サム・ライミ!  
ここまでヤラれるか、アリソン・ローマン!  
極ドドドドに! 鬼ガロゴロに!  
パツキン女優の美と尊厳を  
完膚なきまでに破壊する。  
執拗で無慈悲な「スペル」攻撃を甘受し、  
敢闘したアリソン嬢に  
血まみれの表彰状を!  
★秋本鉄次さん(映画は「女優」で見る評論家)



イラスト:五月女ケイ子(シネコンウォーカー10月号より)

衝撃の答えはこの中に!!